

中田図書新聞

武満徹 自らを語る

人は声や音なしでは暮せないように、
人は沈黙なしでも
生きることはできない。

瀧口修造

◆「シヨック」を受ける人々
◆「断捨離」×ソッド
◆みずす書房「下関」

くれた。言葉で聞かせてよ、
それが大きな音で、やう
と来心する。

中学を出て一人暮らし
うしを始めた。少年は米
兵からタバコを買って、銀座
の未だ相手をのびる。そこ
に流れて行く。米兵が、

少年は横柄に、理由
負え物語は、横柄に、理由
アノを、横柄に、理由
アノを、横柄に、理由

何れも、横柄に、理由
アノを、横柄に、理由
アノを、横柄に、理由
アノを、横柄に、理由

何れも、横柄に、理由
アノを、横柄に、理由
アノを、横柄に、理由
アノを、横柄に、理由

何れも、横柄に、理由
アノを、横柄に、理由
アノを、横柄に、理由
アノを、横柄に、理由

何れも、横柄に、理由
アノを、横柄に、理由
アノを、横柄に、理由
アノを、横柄に、理由



武満徹

まだ見ぬあの人に
想いを馳せてみる

昔の技術・習慣とい

うのは、本当に我々に驚
きと感動を与え、それ

れを生きていくと、
の柳田泉、明治大

正史、柳田泉、明治大
の柳田泉、明治大

正史、柳田泉、明治大
の柳田泉、明治大

正史、柳田泉、明治大
の柳田泉、明治大

いふふうには、色んな人
が、いふふうには、色んな人
が、いふふうには、色んな人
が、いふふうには、色んな人

現代の大和絵師
腕力系(2)日常まんが

近年の山口晃の活躍
には、目をみはるもの

近年の山口晃の活躍
には、目をみはるもの

近年の山口晃の活躍
には、目をみはるもの

近年の山口晃の活躍
には、目をみはるもの

近年の山口晃の活躍
には、目をみはるもの



大雪の中の珍事

大雪の中の珍事
大雪の中の珍事
大雪の中の珍事
大雪の中の珍事

寝台列車廃止に
もの申す！

ニヨウクである。何がという、春のダイヤ改正で「寝台特急」が北陸と急行「能登」が共に廃止になるニュースを知ったからである。

確かにここ数年、各地で寝台特急の廃止が相次いでいるが、以前とある所用の帰りに北陸で帰ってきた際、週末金曜日とあってか、ほぼ満席の車をみせているし、せめて新幹線が来るまでは走るものと思っていたので唐突感がある。廃止の理由は乗車率の低迷と車両の老朽化にあるということだ。しかし著者の考えに沿うならば、それだけの理由ではなさそうなのである。乗車率が低ければ、新車両の製造にもコストは掛けられない。列車の夜間走行区間の停車駅人員も必要となり費用が削減も低くなる。またJRに民営化された直後は、夜間だけでなく、昼間にも客車列車が各地に存在していたが、現在はほぼ電車かデパートで電車が、電気機関車やディーゼル機関車の運転士が、JR貨物を除いて

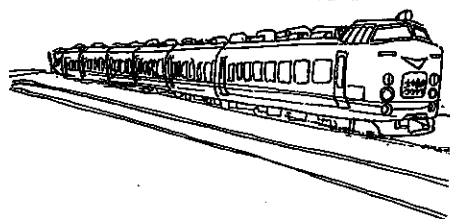
少なくなつてきてゐること、今後、若手機関士を養成してもコストに合わない、などの裏事情もあるようなのである。

ここまでなると、寝台列車に未来は無いよ
 うな話になる。しかし、
 著者は対策次第では、
 寝台列車復権も可能で
 あると前向きに説く。

機関士がいらないなら、
 ジェット貨物が運行すれば
 良い、または寝台列車
 専門の運行会社を設立
 すれば良い、やら、こ
 の著者ならではの発想
 である。

旅を乗りか手段とし
 て、寝台列車は必ず需
 要があるはずなので、
 その復権の日を願わね
 ばはいらないのであ
 る。

1990年11月



かがくいひろしの
原画展に思う。

富山県射水市の大島
町絵本館で開催されて
いた、絵本作家がかく

いひろしの原画展に行
って来た。
作者は昨年9月末、
病氣のため五十四歳の
若さで急逝したが、彼
の「遺作」はその後も
各出版社から刊行され
私たちを樂しませてく
れている。
今回の原画展では、
口おもちのさもち、口お
むすびさんちのたうえ
のひら2作品の原画を
観る事が出来た。パス
テル調の色彩とユーモ
ラスなキャラクター。
思わず「くすっ」と笑
ってしまふようなおも
しろさが作品から溢れ
出してゐる。絵本の形
になつた絵とはまた違
う、原画独特の雰囲気
に、どの原画の前でも
足が止まつた。そして
その度に「かがくいひ
ろ」という絵本作家が
いなくなつてしまつた
ことをとても寂しく思
つたのだつた。
かがくいひろの絵
本は、絵だけでなく、
ことばのリズムもとて
も楽しい。代表作の
「だるまさん」シリーズ
では小さな子供への説
み聞かせにぴたりと
はなれたうかが。私的
におすすめるは口おしく
らまんじやう。お話の
テンポもするりとなが
ら、オチがすごい。
ぜひ、ご一読下さい。

断捨離のすすめ

流、行、つと前「風水」が流、行、つていました。風水は「掃除」してある。二と「前」提でした。数年前「収細・掃除」が流行ってりました。収細は「不要物が無い」といっていること、物が片付いて前提でした。それ、そしていいよ、99%すぎる持ち物」をどうにかしたい」という時、が来ました。「断捨離」三断行、捨行、離行は「心の執着を手放す行法哲学で、著者はヨガで知ったということです。心の執着を手放す、というとは何やら仏教めいています、と、りあえずモノを捨てるための整理術として「断捨離」×リッドを始め、みてはいかがでしょう。か。

収細保存という「停滯」より「断捨離」という「新陳代謝」がこの頃の変化の時代には必要です。

まずは、もったいないを捨て、小さな気持ちで始めましょう。心が身軽になれば、時代の変化もしなやかに対応していただけるのではないしょうか。

マラソニ一年生

運動が苦手な作者が
マラソンビギナーから
ホノルルマラソンに参
加するまでの一年間を
まとめたコミックエッ
セイです。

ゼロからの体の作り
方や、実際のマラソン
大会の舞台裏。また、
「まずは形からでしょ、
と攜帶者乗プレイヤー
を購入」走ったあとの
ビールは欠かさなり、
「ご当地マラソンは温
泉旅行もかぬる」など
探求は、たかぎなおこ
さんならでは！

何が始めたくなる春
を前に読んでおきたい
一冊です。

（紙）

文豪内田百閒は、用
が無くとも列車に乗っ
てふらりと旅に出た。
大義名分のない旅を百
閒は「阿房列車」と呼
んでいた。

「負け犬・勝ち犬」
などの流行語を生み出
したエッセイストの酒
井順三さんもまた、気
ままな列車旅行を愛す
る一人。ただし借金ま
みでして一等車に乗った
百閒とは違い、こちら

平成の阿房列車

奇想天外な
科学実験ファイル

はローカル線や地下鉄など庶民的な列車に揺られる。

車窓からの景色、お年当の描寫ににやり。昭和も今も、のん気な阿房列車は旅の楽しみを散えてくれる。(晶)

奇想天外な
科学実験ファイル

科学実験。心惹かせる言葉である。ジャンにを問わず、古い時代の科学実験は目を引くものが多い。もちろんこの著書のタイトルから想像できる通り、中にはシヨッキンクな内容の実験も取り上げられてゐる。ただ、そういった内容の実験も面白おかしく取り上げてゐるだけではなく、その後の科学史への影響や評価についても記述されてゐる点が良いことだと思ふ。

一時期ブームになつた「モーターサイクル結果」についての実験も紹介されてゐる。直後に否定的な実験結果が多く報告されたが、市場レベルではおかまいなしにブームが続いたこともあわせて記述されておき、有名な実験の裏話としても面白い一冊だと思ふ。(エクスナレッジ・刊)(崇)

編集後記：高校の美術の恩師が、最初の授業、ベニヤ板に枠をつけ白いペンキを塗ってキャンバスをつくられた際、「この先どんな絵を描いても、このキャンバスの白を超える白を描くことは難しい」といわれた。武蔵の「音、沈黙と〜」と並んで私を支える言葉である。